

## SPring-8 運転・利用状況

財団法人高輝度光科学研究センター  
計画管理グループ

## 平成10年6月～7月の運転・利用実績

SPring-8は5月27日から第7サイクル、6月17日から第8サイクルの運転を、それぞれ3週間連続運転モードで実施した。機器の稼働は極めて順調で、放射光利用運転時間（ビームタイム）内での故障等による停止時間は2%以下である。

SPring-8は7月4日から夏期停止期間として、ビームラインの増設と挿入装置の据え付け、各機器の点検・改修作業等を開始した。運転再開は9月上旬の予定である。

第7、第8サイクルでの放射光利用実績は、実験された研究課題は合計112件、利用研究者数は452名にのぼった。

## 1. 装置運転関係

## (1) 運転期間

第7サイクル (5/27(水)～6/12(金))

第8サイクル (6/17(水)～7/3(金))

## (2) 運転時間の内訳

運転時間総計 約775時間

装置の調整、およびマシンスタディー

約189時間

放射光利用運転（ビームタイム）時間

約574時間

ビームタイム内での故障等によるdown time

約12時間

(総利用運転時間に対するdown timeの割合 約2%)

## (3) 運転スペック等

21バンチ運転（全期間に亘り）

蓄積電流 17～19mA

(マシンスタディ時は一部～99mA)

ビーム寿命（挿入光源のギャップを閉じた状態で） 約20時間

## (4) トピックス

・前サイクルの終わりに蓄積リングビーム電流を100mAまで蓄積させたが、ユーザー利用はこれまでの予定どおり20mA、21バンチモードで運転を実施した。

・線型加速器の電子銃の改良を行い、これまで約30分必要であった21バンチモードでの入射時間が、約3分に大幅に短縮された。

## 2. 利用関係

## (1) 放射光利用実験期間（第7、第8サイクル合計）

第7サイクル (5/29(金)～6/10(水))

第8サイクル (6/19(金)～7/1(水))

## (2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン 共用ビームライン 9本

R&Dビームライン 1本

理研ビームライン 2本

(1本は最終調整中)

原研ビームライン 2本

(1本は最終調整中)

利用研究課題 112件

利用研究者数 452名

## (3) トピックス

・海外研究機関所属の実験責任者による実験が、第7サイクルで米国、第8サイクルでインドおよび英国のチームによってそれぞれ実施された。

## 今後の予定

(1) 機器・装置は7月3日で運転を停止し、4日から夏期長期停止期間に入った。この間にビームラインの増設工事、挿入装置の据え付けを実施する。また各種機器の点検作業や、線型加速器と兵庫県放射光施設ニュースバルとの接続工事も行う。

(2) 運転再開は9月上旬の予定。ただし、9月7日から予定されている第9サイクルは、夏期停止期間に設置したビームラインや挿入装置のコミッショニングと、機器の立ち上げ調整期間とし、ユーザーへの放射光提供は行わない。

(3) 9月下旬（30日予定）の第10サイクルからユーザー利用を開始する。12月中旬まで、3週間連続運転モードで4サイクル（第10から第13サイクルまで）を行う予定である。